

白河駅前を彩るイルミネーション

12月10日、JR白河駅前で、イルミネーションの点灯式が行われました。市中心市街地活性化協議会（和知繁蔵会長）が、多くの関係者の協力を得て、昨年より多い約4万個の電飾を設置しました。関係者がスイッチを押すと、電飾が一齐に点灯し、集まった人々の中で歓声があがりました。イルミネーションの点灯は、2月11日まで実施しています。



特産品コンクールで受賞

11月19日、本県の品質・創造性等に優れた産品を顕彰する「第10回ふくしま特産品コンクール」で、(有)肉の秋元本店（秋元幸一代表取締役）の白河高原清流豚を使った、「清流豚とろ」が大賞（福島県知事賞）を受賞しました。また、(有)千草屋（草野雅夫代表取締役）の「お日さまリゾット」、鈴木芳旺さん（会津町）の「手作りミニチュア甲冑」が優秀賞に選ばれました。



12月17日、市役所での伝達式に訪れた秋元代表取締役、草野代表取締役、鈴木さん（左2番目から）

市長から激励金の交付を受けた小林さん（左）と眞岡さん（右）



海外での活躍に期待！

12月17日、国際協力機構（JICA）の訓練を終了し、海外派遣が決まった小林慎治さん（表郷高木）と眞岡千佳さん（郭内）が市役所を訪れました。体育指導のためモロッコに行く小林さんは、「スポーツを通して、みんなを笑顔にしたい」、日本語教師としてインドに行く眞岡さんは、「白河に来てみたいと思ってもらえるように日本語を教えたい」と話していました。



高齢者を支援します

11月19日、市地域包括支援センターの明戸への移転開所式が行われ、関係者が待望の開所を祝いました。移転したセンターは、1階には相談室と事務室、2階には会議室があり、保健師・社会福祉士・主任マネージャー等の専門員が相談に応じます。センターは、これまで以上に高齢者の方の介護・福祉・健康・医療の総合窓口として機能していきます。

楽蔵のくわ入れをする鈴木社長

▼屋台会館



白河提灯まつりで使用する屋台（山車）を展示する「天神町屋台会館」が完成し、11月23日に落成式が行われました。この会館では、建物の中にある屋台を窓ガラス越しに見学することができ、夜間には、提灯の明かりがともる仕掛けもあります。同会館維持会の片山春雄会長は、「屋台を見て、白河のまち歩きを楽しんでもらいたい」とあいさつしました。

また、12月6日には、中町蔵活用事業で整備を進めている施設「楽蔵」の安全祈願祭が行われました。この施設には、改修した蔵や新築した建物に、白河ラーメンなどの飲食店や農産物などの物販店を設置し、4月にオープンする予定です。事業を実施している(株)楽市白河の鈴木雅文社長は、「人が集まる憩いの場を創っていきたい」と話していました。

市農商工連携促進事業

市では、農産物等の地域資源を活用し、農商工連携により新たに商品開発、販路開拓を目指す団体に対し、補助金を交付しています。12月3日には、この補助金の交付を受けた、障がい者就労支援の会みっぺ（小針紀子代表）が、市内で栽培する杜仲の木を使用して開発した「杜仲茶」の紹介に市役所を訪れました。この杜仲茶は、えきかふえ等で販売しています。



歴史まちづくりを考える

11月28日、白河商工会議所（大手町）で「歴史まちづくり市民シンポジウム」が開催されました。シンポジウムでは、有賀隆早稲田大学教授による基調講演のほか、有賀教授をコーディネーターに、国土交通省、文化庁、藤田龍文(株)楽市白河副社長、鈴木市長によるパネルディスカッションが行われました。来場者は、歴史まちづくりの話に聞き入っていました。

